



巻頭言

経済社会等の変化と技術管理

(財)日本植物調節剤研究協会 理事 田口 俊郎
(社)全国農業改良普及協会 会長

二十一世紀を目前に、今日は内外ともに大きな変革期にあるように思う。その一つは国際化の著しい進展である。東南アジアとはもとより、中南米地域やアフリカ地域等との交流が、各界各層で行われつつあり、異質の価値観等に接する機会が増している。また国際協力の一貫としての研修や技術支援等も活発に行われており、好むと好まざるとに拘らず国際化の波は、全国各地に打寄せている状況にある。二つには、地球規模での課題が増加しつつあることである。地域紛争や民族対立等の局地的問題もあるが、広くは南北対立、地球温暖化等の環境問題、人口問題、食料問題、金融問題等当面する課題から中長期的に取り組むべきものまでである。とくに環境問題は、早急な国際社会のコンセンサスづくりを進めることが肝要な問題で、粘り強い取り組みが求められている。三つには、巾広く科学技術の分野で顕著な進歩、発展がみられることである。電子、情報通信等の工学分野のみならず農林水産関係分野においても栽培管理、資機材利用から遺伝子組換え操作まで、広い領域にわたって開発、改良が行われている。これらには経済社会の発展に伴う要請や国民の生活向上を目指すニーズの変化等に応えるものが少くない。四つには、経済社会が大きく変化してきていることである。金融等のグローバル化の進行はもとより、個人と社会の関係が見直され、問い直される時代へ進みつつある。まさに自らが自らの責任を自覚して進む以外に信頼の依り所のない時代でもある。とくに社会生活の基本となる倫理観、共同意識、連帯感が次第に薄れてきて、コンセンサスづくりが一層

困難さを増し、社会生活の秩序や安定性を大きく阻害する事態も引き起している。これは人間性が弱まりつつある証左でもあろう。

以上のような種々の大きな変化、変革の下では基本目標として、人間生活の充実、持続、発展が維持され、人々の経済社会活動が安定的に営まれ、国際社会の平和と繁栄がもたらされることをとくに強調したい。

そこで全ての分野における技術管理について前述の視点からの検討、ルールづくりを提案したい。技術の開発、利用問題は、その特性から多方向の発展の可能性をもち、方向によっては悪影響を生ずる可能性も無しとはいえない。例えば、生命工学等分野の著しい進歩の結果、遺伝子操作によって動物の双子、三つ子を誕生させることはもとより、多数のコピーを作出することも技術的には可能であることから、人への応用が倫理上強く懸念され、そのような技術の開発、利用、管理に対し各方面から警告が与えられている。近年起っている青少年犯罪等の手段、方法の中にも人類の無秩序な知的欲求が、結果として人々や社会を不幸にする手段、方法を生み出しているのではなからうか。技術については、単に特許権の管理のみに頼るのではなく、技術を活用するに当たっては、将来にわたってその技術管理に適正を期し、人類社会にとって誤り無きを図るべきと思う。欧米社会においては、すでに技術管理は極く一般化し社会に定着しているが、わが国では未だこれからの課題である。早急に国民の理解を深め、国際社会の中で通ずるルール、システムづくりを進めていくことを希望したい。